



No. 468

平成22年9月23日発行
〒156-0043 東京都世田谷区
松原1-7-20

扶桑教大教庁

TEL: 03-3321-0238

六根清浄 御山は晴天

御神火大祭 謹修

(六月三日)

御神實天拝宮へ奉遷

富士登拝修行

(七月十六日～十九日)

報元大祭

(九月二十三日)



残暑が続いておりますが、

皆様におかれましては、お健やかに過ごされていることと拝察いたします。

御神火大祭に始まった本年の御山神事も、御神實富士登岳・供奉登拝修行と並事に謹修することができました。その仔細をご報告いたします。

御山第一儀

御神火大祭謹修

平成二十二年度富士山神事の第一儀、開山御神火大祭が六月三日に太祠境内にて齋行されました。

本殿より御神實の出御を仰いで、管長殿以下齋員一同、御開祖角行様が富士山頂で結霊直授の元龜三年六月三日に



左上、富士山御来光
上、山頂を奉拝する齋員一同
左、登拝修行中の御信徒
下、天拝の御神事

因むこの神事に誠の祈りを捧げ、全国各地から寄せられたご祈願に大神様との御取次を務められました。

ご参拝者は齋火壇に高々と燃え上がる淨炎を見上げつつ一心に祈りを捧げ、神事後半の齋場参拝では祭壇の御神實に深々と拝礼されました。

御山第二儀

御神實天拝宮へ奉遷

富士登拝修行

七月十六日から十九日の四日間、御神實供奉富士登拝修行が行われました。

太祠御本殿より御神實が御

出立、管長殿お見送りの中で教嗣殿はじめ供奉員が古例に倣って富士吉田の北口浅間神社へ扶桑教元祠へ御師大國屋に宿泊し、それぞれの場所で神事を行いました。



好天に恵まれた翌十七日午後三時半に御神實は、無事富士山天拝宮に御奉遷され、供奉員一同、天拝神事を謹修いたしました。

御来光も美しい三日目の十八日早朝には、御神實は富士山頂登拝を叶われ、この後一月の間、天拝宮において、連日に渡る各教区からの教会・講社による富士登拝修行を迎えるの神事をお授けになりました。

管長殿
百五十回目の富士登

頂

管長殿には今年七月二十八日、無事に富士山頂登拝を成就されました。

随行の神奈川教区富士心道武蔵中丸教会河原邦光教会長はじめ登拝者一行とともに、天拝宮をご出発、頂上久須志神社にご到着されました。

神前にて百五十回目のご記帳およびご参拝をされ、その後無事に天拝宮にご下山となりました。



御神實還御



御神實は、八月二十日、奉迎登拝の奉仕員供奉のもと、御下山され、太祠御本殿に無事還御なされました。

秋季報元大祭には、還幸天拝神事が斎行されます。

今年も御神實の新たな息吹を授かりましょう。

管長殿卒寿を祝う会

管長殿には、本年めでたく卒寿をお迎えになられ、六月四日、帝国ホテルにおいて、各教派管長様はじめ多数の皆様が御臨席を賜り、盛大な祝宴が催されました。



太祠夏越の大祓齋行

本教においては、毎年夏と暮れに管長殿ご親祭による「大祓」の神事を齋行しています。大祓は、私たち知らず知らず犯している罪汚れを、和紙で作った形代(かたしろ)に移して、切麻で身を祓い清める行事で、神代から伝わる古式行事です。本教ではそれに加えて、「八針取り裂きの神事」を行います。



これは古式に則り大祓祝詞に基づいて、祭官が晒と麻緒を持ってそれぞれ左右に引き裂くものです。本殿での祭儀中、境内方向に設けた祭壇に移動

して、この神事を行い、再び本殿に戻って玉串を捧げて大神様に祈ります。

早くも秋を迎え、一年の後半に入りました。不景気、猛暑で社会情勢は未だに不安定な様相ですが、私たちの心は常に清浄を保って毎日を過ごしたいものです。

敬神の道標 ②

「富士講」の研究書 1

『富士講の歴史 江戸庶民の山岳信仰』 岩科小一郎 著
名著出版 昭和五十八年刊
絶版だが、古書店などで入手は可能。元版は一万円前後、オンデマンド版は七千円位。

「富士講」は俗に「江戸八百八講」とも言われますように、近世から近代の庶民にとっては非常に身近な存在でありました。しかし、あまりに身近すぎて資料が残らないということもあり、また富士講が盛んだった地域が関東大震